

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2012.10.31 No. 47

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目 次

- ・後藤明日香「第79回研究会（「大学資料の調査・収集」について考える）に参加して」… 1
- ・石田 順二「東京理科大学近代科学資料館見学会に参加して」…………… 3
- ・全国大学史資料協議会東日本部会 2012 年度総会議事録…………… 4
- ・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録…………… 9
- ・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録…………… 12

2012年3月6日(火)研究会

第79回研究会（「大学資料の調査・収集」について考える）に参加して

東京女子医科大学史料室・吉岡彌生記念室 後藤明日香

第79回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は2012年3月6日(火)14時より、武蔵野美術大学新宿サテライト room A・Bにて開催された。

名誉会員の鈴木秀幸氏より基調報告「大学資料の調査・収集を考える」があり、著作『大学史および大学史活動の研究』（日本経済評論社、2010年）の執筆経験を踏まえた報告を拝聴した。続いて専修大学総務部大学史資料課の瀬戸口龍一氏より「専修大学における学外資料の調査・収集・活用について」、京都大学大学文書館の坂口貴弘氏より「京都大学大学文書館における学内文書の移管と整理」と題した報告が行われた。

鈴木氏の著作『大学史および大学史活動の研究』は、日々の実践活動による「生きた」大学史活動を基本として執筆された。調査や収集など「目に見えにくい」活動の積み重ねが重要である。活動は狭い意味の「大学史研

究」ではなく、「大学史活動」として幅広く行い、大学に固執せず、地方史・村落史研究の援用によって、地方と中央との相関関係を比較しながら考える必要がある。その際、頭と足、内と外といった、複眼的な視点が欠かせないとのこと。また、基礎・基本となる調査や整理活動を指す内的活動と、編纂・展示・教育普及等の活動を指す外的活動は、常に両者のバランスが必要である。

対象となる資料は、組織が生産する学内資料と、主に個人が生産する学外資料とあるが、その区別は単に所在場所だけでは不十分であり、同時に必ずしもはっきり分けられないとも述べられた。地道な調査活動は人員や時間の関係でおろそかになりがちだが、「何のために行うか」という本来の目標に立ち返り、大学が知的財産を所有する意義を踏まえ、社会に還元する使命を持って取り組むべきと話された。

自らの経験から、調査は一回で終わらず、つてや情報を頼りに広げていくものであり、学外資料は収集に拘らず、複製を作り、所在を記録する事が大切だとされた。実体験として倉敷や鹿児島への調査の際、偶然の出会いから次々に豊かな広がりが生まれたというエピソードがあったが、こうした偶然を引き寄せるには地道な取り組みがあってこそと考えさせられ、調査へのひたむきな姿勢が印象的であった。氏は、継続した調査・収集の大切さを強調され、ビジョンを明確にし、頭と足を使い、学内外の資料のため大学の枠組みを越えた協力が重要であると締めくくられた。

瀬戸口氏からは専修大学の総務部大学史資料課の組織体制に始まり、学外の資料調査、活用方法について報告がなされた。専修大学では、130年史事業の際設立された大学史編纂事業アドバイザー部会があり、歴史学専門の教員・元教員8名が年間3～4回の会議で諸事項を決定し、理事長へ報告する。一見非常に整った体制だが、氏によると、定員2名では日々の活動に限界があり、協力組織との連携、費用捻出の「理由づけ」、教員・卒業生ネットワークの活用が必須であるとのこと。特に私立大学では学内資料の収集が、部署同士の関係で難しいことも多く、学外資料の収集実績を元にし、学内の資料を収集しているという興味深い事例が挙げられた。創立者4人の各出身地での展示の開催、資料集刊行等、目に見える成果をアピールすることで、活動を周知させ、より大きな大学史活動を展開させるという工夫をうかがうことができた。専修大学の大学史への取り組みは後発ということだが、その分他大学の良い点を取り入れ、効果的で戦略的な活動が展開されていると感じた。

坂口氏からは、2000年に設置された文書館の概要、受入れから公開までのシステムについて聞くことができた。毎年夏頃に、保存期間満了の全文書について、大学文書館への移送か、各部局で保管かの判断を行う。受入れ資料はリストと照合し、すべて個人情報の点検とマスキングが行われる。資料は評価・



ディスカッションを行なう報告者
(左から)鈴木 秀幸氏・瀬戸口龍一氏
坂口 貴弘氏

選別後、7割が廃棄処分となるが、3名の職員で廃棄基準に差が出ないように、協議・調整し、部局へ確認した上で廃棄決定する。保存文書は簡易な保存措置を取り、外部への公開のため所蔵資料検索システムへの登録を行い、実際の利用請求に備える。

今後の課題には、保存に必要な措置、識別番号付与、目録の作成が挙げられた。現在約15万点の所蔵資料のうち、公開中のものは2割未満の約2万6千点という。未整理資料の扱いは他業務とのバランスが必要とのこと。また、各部局の文書を調査し、法人文書の保存状況を把握することも必要である。学内刊行物の網羅的な収集も欠かせない。個人資料は、近年寄贈が増加しているが、頻繁な外部調査は難しいので今後対策が必要とのことであった。まとめとして各部局とのコミュニケーションのため、移管説明会を開いて周知をはかり、受入れ・選別結果の確認依頼を行っていることを挙げられた。後で聞いたところ、文書館の決定に各部署から異議や変更はほとんどないとのことであったが、各部局の意向を尊重することをアピールするため、確認依頼は欠かせない作業であろう。また、文書館側にも書類保存の必要性を把握できるメリットがある。膨大な仕事量の中でも、各部局との関わりを大切にす坂口氏の姿勢は、前段の瀬戸口氏の報告に通じ、貴重な事例を学ぶことが出来た。

2012年7月19日(木) 研究会

東京理科大学近代科学資料館見学会に参加して

名誉会員 石田 順二

「理系なのにい」。大石和江学芸員は2回声を上げた。

第80回東日本部会研究会として7月19日に開催された東京理科大学近代科学資料館見学会では、見学に先立って二つの講演があった。最初の講演、竹内伸館長による「近代科学資料館のなりたちと活動のとりくみ」において、投影していたパソコンからの映像が途中で消えてしまい、復帰作業をしていた大石氏から重ねて発せられた言葉だ。

大石氏は、二番目の講演「日食展報告—天文書デジタルデータの公開」で、本年3～5月に開催された「日食展」の実施報告もした。展覧会では、実際の展示資料の他に展示資料を画像データ化して保存したタブレット端末を会場に置いたが、結果として端末を手にとって見る人は少なく実際の展示（実物）が勝っていたとの報告をした。その後、現在、資料保存、公開の観点からデジタル化を進めており、記録媒体の変化などの課題はあるが「理系」大学資料館としてデジタル化の研究を模索してゆきたいと述べた。

「理系」、私はこの言葉に理科系大学（あるいは理科系資料館）としての自負を感じた。その自負とは自らの大学の専門性を誇りとする気持ちを基にするものであると同時に、21名の若き創立者達が持っていた「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」との意気込み、気概が脈々と今につながっているのではないかと感じさせるものであった。

常設展示は一階「計算機の歴史」、「録音技術の歴史」、二階「東京物理学校から東京理科大学へ」である。同館の所蔵資料は東京物理学校時代から受け継いできたものと、元教員や大学ゆかりの人々からの寄贈によるものである。石や薬を使った計算からパソコンまでの計算用具、計算機器類、エジソンなどの



講演する竹内伸館長

蓄音機など貴重な実物資料が多数、所狭しと展示されている。エジソンの蝸管蓄音機を聞かせていただいたが、音の鮮明さ、ボリュームの大きさ（電気で増幅していないにも関わらず）には驚かされた。大学史資料について竹内館長は「資料が少ない」と言われていたが、一階の展示資料の内、東京物理学校以降の教育、研究に使われた資料があるならば、それらも大学史資料と言えるのではないだろうか。

企画展示は二階企画展示室で翌日（7月20日）から開催される「秋山仁の算数・数学おもしろランド」展を、一日前倒して見せていただいた。数学の理論を具体的な実験によって実証、確認できるもので、小学生から大人まで楽しめるよう工夫、努力されていると感じた。開催前日のお忙しい中、実験を説明・実演していただいたスタッフの方に感謝申し上げたい。

竹内館長は資料館への入館が学外者に比べて東京理科大生が少ないと言われていた。が同館の展示実物資料は、作られ使われた目的が明確かつ具体的なものが多く、これらを授

業で活用する機会を持っていないものかと思った。「日食展」で、学生サークルである天文研究部の展示が大きな柱となっており、同展は今後の館と学生との繋がり、関わりの可能性を予感させるものでもあった。

東京理科大学は、東京大学を卒業して間もない卒業生らが1881（明治14）年に東京物理学講習所として創立したもので、創立者

たちの若さと意思の強さには驚かされる。2年後に東京物理学校と改称した時の初代校長寺尾寿の年齢も33歳である。創立130年を超える歴史を有する大学であるが、見学から感じた資料館の瑞々しさ、澁刺さは、大学が創立された経緯とも関わりがあるのかもしれないと思った。

全国大学史資料協議会
東日本部会 2012 年度総会議事録

日時 2012年5月31日（木）
15時～16時

会場 日本女子大学新泉山館1階大会議室
〔部会総会の成立〕
*現会員数と出欠状況
名誉会員
＜総計＞4＜出席＞2＜欠席届＞
＜未回答＞2
機関会員
＜総計＞67＜出席＞34
＜欠席届＞28＜未回答＞5
個人会員
＜総計＞30＜出席＞4
＜欠席届＞17＜未回答＞9
総計
＜総計＞101＜出席＞40
＜欠席届＞45＜未回答＞16
*総会定足数は、機関会員67（休
会会員を除く）、個人会員30の総
計97の過半数＝49である。
*部会規約11条第5項に基づき欠
席届を総会議長への委任状とする
ため、出席会員数（38）と欠席届
提出会員数（45）の合計は83と
なり、部会総会は成立した。
〔出席会員〕
愛知教育大学 青山学院 学習院
神奈川大学 関東学院 慶應義塾
工学院大学 國學院大學

国際基督教大学 国士舘大学
芝浦工業大学 淑徳大学
上智大学 女子美術大学 成蹊学園
専修大学 大東文化大学 拓殖大学
中央大学 東海大学 東京経済大学
東京女子医科大学 東京電機大学
東京農業大学 東洋学園大学
獨協大学 南山大学 日本女子大学
日本体育大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教大学 立正大学
鈴木 秀幸 東田 全義
阿部 伊作 富田 美加
中村 青志 西山 伸

（出席者合計61名）

会場校挨拶 清水 康行氏
（日本女子大学文学部長・
成瀬記念館担当理事）

開会の挨拶 澤木 武美氏
（会長校・神奈川大学大学資
料編纂室）

議長の選出 議長 桜井 昭男氏
（淑徳大学アーカイヴズ）
副議長 後藤明日香氏
（東京女子医科大学史料室・
吉岡彌生記念室）

議事 1. 2011年度事業報告書・同決算
報告について
事務局（日本大学）から配布資
料「2011年度事業報告書」に基
づいて昨年度の事業が報告され、
会計委員（大東文化大学）から
配布資料「2011年度収支決算書」

(p 6【表1】)に基づいて昨年度の収支決算が報告された。次いで監査委員(國學院大學)から決算が適正であった旨の監査報告(p 7【表2】)があり、各報告について満場一致で承認された。

2. 2012年度事業計画案・同予算案について

事務局(日本大学)から配布資料「2012年度事業計画書(案)」に基づいて本年度事業計画案が説明され、次いで会計委員(大東文化大学)から配布資料「2012年度収支予算書(案)」(p 8【表3】)に基づいて今年度予算案が説明され、審議の結果、事業計画、予算とも原案通り満場一致で承認された。

なお、事業計画案にある記念事業ワーキンググループについては、人選等は幹事会に一任することとした。これについては会員より、グループ発足後は、会員へ広く周知し、意見を取り入れながら活動して欲しいとの意見があった。

3. 名誉会員の推薦について

事務局(日本大学)から、候補者の石田順二氏の会に対する功績等が紹介され「幹事会において、名誉会員内規に定める資格を充分満たしていると判断し、総会に推薦することとした」との説明があった。審議の結果、石田氏の名誉会員への推薦を満場一致で承認した。

4. その他

特になし。

閉会の挨拶 益井 邦夫氏

(新会長校・國學院大學校史・
学術資産研究センター)

見 学 日本女子大学成瀬記念館

成瀬記念講堂 成瀬記念館分館

〔概要〕

2012年度部会総会見学会は、会場校である日本女子大学の成瀬記念館、成瀬記念講堂、成瀬記念館分館(旧成瀬仁蔵住宅)を見学した。

「成瀬記念館」では常設展のほか、企画展「成瀬仁蔵と自然科学教育」が開催されており、日本女子大学創設者成瀬仁蔵の教育理念、建学の精神、女子高等教育機関の先駆けとしての歴史的意味合いを伝えていた。「成瀬記念講堂」は文京区指定有形文化財の第一号として指定された建物であり、明治39年の建設時には講堂としてはもちろん二階バルコニー部分は図書館として活用されるなど日本女子大学教育の礎となった建築物であった。ステンドグラスでの採光、高村光太郎作の成瀬のトルソー、天井の一部が電動で開閉して採光を調整する仕組み等について説明を受けた。「成瀬記念館分館」は、やはり文京区指定有形文化財に指定されている建築物である。成瀬が没するまで居住した重厚に満ちた建築は、成瀬が愛用した家具とともに当時の面影を伝えるものであった。

(浅沼 薫奈)

情報交換会 日本女子大学桜楓2号館3階において情報交換会を開催した。副会長の東海大学椿田卓士氏から開会の挨拶が、名誉会員の鈴木秀幸氏から乾杯の発声があった。司会進行は神奈川大学大学資料編纂室の齊藤研也氏が務め、新規入会会員、初参加者等の挨拶があり、和気あいあいの中、情報交換が行なわれた。最後に日本女子大学成瀬記念館主事・文学部教授の吉良芳恵氏から閉会の挨拶があり、情報交換会を終了した。

【表 1】

全国大学史資料協議会東日本部会

2011 年度収支決算書

2011 年 4 月 1 日～ 2012 年 3 月 31 日

【収 入】

(単位 円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会費収入	1,475,000	1,495,000	△ 20,000	
法人等会員	1,340,000	1,360,000	△ 20,000	68 機関 (うち新入会 2)、休会 5 @ 2 万円
個人会員	135,000	135,000	0	26 名 (うち新入会 2)、2011 年度未納 2 @ 5 千円
利息収入	1,000	636	364	
預貯金利息	1,000	636	364	銀行利息、郵便貯金利息
参加費収入	675,000	725,000	△ 50,000	
部会総会参加費	315,000	329,000	△ 14,000	女子美術大学 47 名 @ 7,000 円
全国総会参加費	360,000	396,000	△ 36,000	皇學館大学 44 名 @ 9,000 円
印税収入	5,000	22,080	△ 17,080	
印税収入	5,000	22,080	△ 17,080	『日本の大学アーカイヴズ』46 部×480 円 (定価 10%)
雑収入	0	0	0	
合 計	2,156,000	2,242,716	△ 86,716	

【支 出】

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
運営費支出	120,000	28,480	91,520	
総会費	50,000	21,180	28,820	運営費 (講師交通費等)
幹事会費	20,000	1,840	18,160	会場費・運営費
部会研究会費	50,000	5,460	44,540	運営費
謝礼支出	100,000	12,162	87,838	
講師謝礼等	100,000	12,162	87,838	研究部会・全国総会講演料 (西日本分担金 7,838)
消耗品費支出	10,000	7,708	2,292	
消耗品費	10,000	7,708	2,292	事務消耗品費
印刷費支出	400,000	302,400	97,600	
印刷費支出	400,000	302,400	97,600	会報印刷費 (年 2 回) No.45, 46
通信費支出	150,000	69,010	80,990	
事務連絡費	150,000	69,010	80,990	事務連絡費、会報送料他
手数料支出	10,000	2,205	7,795	
手数料等	10,000	2,205	7,795	銀行振込手数料他
参加費支出	300,000	302,250	△ 2,250	
総会参加費	300,000	302,250	△ 2,250	情報交換会費 (6 月部会総会、10 月全国総会)
事業費支出	500,000	230,496	269,504	
出版事業	400,000	218,884	181,116	叢書編集印刷費、リーフレット印刷費、その他
展示事業	0	0	0	集計費・委員交通費等
ホームページ事業	100,000	11,612	88,388	維持・運営費 (西日本分担金 7,612)
30 周年記念事業 積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予備費	50,000	0	50,000	
合 計	2,140,000	1,454,711	685,289	
当年度収支差額	16,000	788,005	—	
前年度繰越収支差額	2,598,052	2,598,052	—	
翌年度繰越収支差額	2,614,052	3,386,057	—	

【表 2】

2011 年度貸借対照表

2012 年 3 月 31 日

【資 産】

(単位 円)

項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
30 周年記念事業積立金	1,000,000	500,000	500,000	三井住友銀行普通預金
銀行預金	3,344,648	2,493,813	850,835	
三井住友銀行	3,344,648	2,493,813	850,835	経堂支店普通預金
郵便貯金	5,340	5,340	0	
ゆうちょ銀行	5,340	5,340	0	通常貯金
現金	36,069	98,899	△ 62,830	
会 計 校	2,491	5,071	△ 2,580	大東文化大学
事 務 校	18,508	50,048	△ 31,540	武蔵野美術大学
事 務 校	15,070	43,780	△ 28,710	日本大学
合 計	4,386,057	3,098,052	1,288,005	

【負債・収支差額】

(単位 円)

項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
負債	1,000,000	500,000	500,000	
30 周年記念事業引当金	1,000,000	500,000	500,000	
収支差額	3,386,057	2,598,052	788,005	
収支差額	3,386,057	2,598,052	788,005	
合 計	4,386,057	3,098,052	1,288,005	

2012 年 4 月 6 日

上記の通り報告します。

会計委員 東京経済大学 伊藤 彰男 ㊟

大東文化大学 浅沼 薫奈 ㊟

2012 年 4 月 18 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 東洋大学校友会 豊田 徳子 ㊟

國學院大学 齋藤 智朗 ㊟

【表 3】

全国大学史資料協議会東日本部会

2012 年度収支予算書（案）

2012 年 4 月 1 日～ 2013 年 3 月 31 日

【収 入】

（単位 円）

項 目	2012 年度予算	2011 年度予算	増 減	摘 要
会費収入	1,500,000	1,475,000	25,000	
法人等会員	1,360,000	1,340,000	20,000	68 機関@ 2 万円（昨年度 68 機関うち新入会 2）、休会 5
個人会員	140,000	135,000	5,000	28 名@ 5 千円（昨年度 28 人うち新入会 2、未納 2）
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息、郵便貯金利息
参加費収入	720,000	675,000	45,000	
部会総会参加費	315,000	315,000	0	45 名 @ 7,000 円（2011 年度女子美術大学 47 名）
全国総会参加費	405,000	360,000	45,000	45 名 @ 9,000 円（2011 年度皇學館大学 44 名）
印税収入	5,000	5,000	0	
印税収入	5,000	5,000	0	『日本の大学アーカイヴズ』10 部× 480 円（定価 10%）
雑収入	0	0	0	
合 計	2,226,000	2,156,000	70,000	

【支 出】

項 目	2012 年度予算	2011 年度予算	増 減	摘 要
運営費支出	120,000	120,000	0	
総会費	50,000	50,000	0	会場費・運営費
幹事会費	20,000	20,000	0	会場費他
部会研究会費	50,000	50,000	0	会場費・運営費
謝礼支出	100,000	100,000	0	
講師謝礼等	100,000	100,000	0	研究部会・全国総会講演料
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	400,000	400,000	0	
印刷費支出	400,000	400,000	0	会報印刷費（年 2 回）
通信費支出	150,000	150,000	0	
事務連絡費	150,000	150,000	0	事務連絡費、会報送料他
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	銀行振込手数料他
参加費支出	380,000	300,000	80,000	
総会参加費	380,000	300,000	80,000	情報交換会費（5 月部会総会、10 月全国総会）
事業費支出	500,000	500,000	0	
出版事業	400,000	400,000	0	叢書編集印刷費、その他
その他	0	0	0	2010 年度は展示図録制作費として、2011 年度なし
ホームページ事業	100,000	100,000	0	維持・運営費
30 周年記念事業 積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合 計	2,220,000	2,140,000	80,000	
当年度収支差額	6,000	16,000	—	
前年度繰越収支差額	3,386,057	2,598,052	—	
翌年度繰越収支差額	3,392,057	2,614,052	—	

全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

第 117 回 2012 年 3 月 6 日 (火)

12 時 30 分～ 13 時 45 分

会 場 武蔵野美術大学

新宿サテライト roomC

出 席 神奈川大学 國學院大學 東海大学

日本大学 武蔵野美術大学

明治大学

中村 青志

議 事 (1) 2012 年度東日本部会総会に
ついて

事務局 (日本大学) より、
2012 年度部会総会概要案の報告
があり了承された。引き続き会
場校 (日本女子大学) と調整し、
次回幹事会で詳細を決定するこ
ととなった。

(2) 2012 年度幹事会について

事務局 (日本大学) より、専修
大学と西山伸氏から新幹事とな
ることの内諾を得た旨の報告が
あり了承された。次いで、新年度
役員・業務分担案について審議さ
れた。新年度役員案につ
いては、部会総会で諮ることと
なった。

(3) 2012 年度研究会について

研究会担当 (東海大学) より、
研究会に関するアンケート結果
が報告され、それを踏まえて
2012 年度の年間テーマを「大学
史資料の整理と保存」と決定し
た。また、7 月の研究会は、見学
先を調整の上、次回幹事会で担当
校を検討することとなった。

(4) 会報編集報告

会報担当 (神奈川大学) より、
会報第 46 号の進捗状況の報告が

あった。

(5) その他

① 訃報について

事務局 (日本大学) より、元
同志社大学資料室河野仁昭氏 (西
日本部会名誉会員) が逝去された
旨報告された。

② 3 月研究会オブザーバー参加
について

事務局 (日本大学) より、武蔵
野美術大学石田順二氏が、本日の
研究会にオブザーバーとして参
加される旨の報告があり了承さ
れた。

③ 2011 年度全国総会研究会記念
講演謝礼について

事務局 (日本大学) より、全国
総会諸費用については西日本部
会との会計処理は済んでいるが、
記念講演謝礼については未処理
だったため、西日本部会と調整し
て費用を按分する旨の報告があ
り了承された。

④ 研究叢書会員外の配布先につ
いて

研究叢書編集担当 (日本大学)
より、研究叢書の外部配布先リス
トを作成したとの報告があり了
承された。配付先リストは西日本
部会にも送付し、今後送付先情報
の共有化を図ることとした。

⑤ 研究叢書第 13 号編集報告

編集担当 (日本大学) より、進
捗状況の説明があった。

⑥ 第 14 回図書館総合展後援依頼
について

事務局 (日本大学) より、図書
館総合展運営委員会から、「第 14
回図書館総合展 / 学術オープンサ
ミット 2012」の後援依頼の説明

があり、審議のうえ承認された。

⑦本協議会創立 30 周年について
事務局（日本大学）より、創立 30 周年に向けて「特別事業ワーキンググループ」を立ち上げてはという提案があり、引き続き検討することとした。

⑧次回幹事会について

次回の幹事会は 4 月 26 日（木）に開催することとし、会場については後日決定することとなった。

第 118 回 2012 年 4 月 26 日（木）

14 時～ 16 時

会 場 明治大学駿河台キャンパス研究棟 4 階第 1 会議室

出 席 神奈川大学 國學院大學
大東文化大学 東海大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
中村 青志

議 題 (1) 2012 年度部会総会について

・事務局（日本大学）より部会総会の概要・案内及び当日の役割分担の報告があり、了承された。

・会計委員（大東文化大学）より 2012 年度予算・2011 年度決算報告案の報告があり、了承された。

・事務局（日本大学）より部会総会資料の 2011 年度事業報告・2012 年度事業計画案の報告があった。なお、2012 年度の幹事会の開催を計 8 回とし、9 月の幹事会は必要があれば開催することです承された。また、計画案に創立 30 周年に向けての特別事業ワーキンググループを発足する旨の記載を入れることが了承された。

(2) 2012 年度幹事会について

・2012 年度役員案を確認し、総会に諮ることとなった。

・研究会記録担当一覧を確認し、了承された。

(3) 2012 年度研究会について

・7 月の研究会担当校は神奈川大学となった。

(4) 会員の入退会について

・機関会員である名古屋大学大学文書資料室の休会を承認した。また、個人会員である青柳小百合氏の退会と、入会届のあった堀田慎一郎氏、工藤元氏の個人会員としての入会が承認された。

(5) その他

・「会報」の発行について

会報担当（神奈川大学）より、会報第 46 号を無事刊行し、会員に発送したとの報告があった。

・研究叢書について

担当（日本大学）より、『研究叢書』第 13 号の編集進捗状況の報告があった。

また、西日本部会より今後刊行する叢書を協議会の web サイトへ掲載してはとの提案について、審議の結果、了承された。

なお、会員以外への研究叢書送付については、西日本部会から不要との連絡を受けたため、東日本部会独自で残部を送付することが確認された。送付先については、改めて検討することとなった。

・全国研究会での報告者推薦について

西日本部会より、本年 10 月の全国研究会テーマを「大学アーカイヴズの社会貢献」と決定したので、東日本部会より報告者 1 名を

推薦してほしい旨の連絡があった。協議の結果、次回あらためて検討することとなった。

第 119 回 2012 年 5 月 31 日 (木)

13 時 30 分～14 時 15 分

会 場 日本女子大学目白キャンパス

新泉山館 1 階大会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學

成蹊学園 大東文化大学 東海大学

日本大学 武蔵野美術大学

明治大学

中村 青志 西山 伸

議 題 1. 2012 年度部会総会運営について

事務局 (日本大学) より、部会総会における時間割・担当者等の最終確認があり、了承された。

2. 2012 年度研究会について

研究会担当 (東海大学) より、今年度の研究会の年間テーマ及び開催予定について説明があった。7 月研究会は大学機関見学会として、7 月 19 日 (木)、東京理科大学を会場とし近代科学資料館を見学することが報告され、了承された。担当は神奈川大学齊藤氏。

3. 会員の入退会について

事務局 (日本大学) より、東海大学馬場弘臣氏の個人会員としての入会及び幹事会役員就任について報告があり、承認された。

4. 記念事業ワーキンググループについて

創立 30 周年へ向けて、記念事業ワーキンググループ発足について審議した結果、メンバーの選については幹事会に一任させていただきよう、総会にて諮るこ

ととした。また、事業内容等については、研究会等の場で会員の意見を聞きながら進めていく方針が確認された。

5. その他

①『研究叢書』第 13 号編集状況について

編集担当 (日本大学) より、第 13 号の進捗状況の説明があった。

第 120 回 2012 年 7 月 19 日 (木)

13 時～13 時 45 分

会 場 東京理科大学神楽坂キャンパス

1 号館 1F・111 教室

出 席 神奈川大学 國學院大學 専修大学

大東文化大学 東海大学 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

西山 伸 馬場 弘臣

議 題 (1) 2012 年度部会総会総括について

事務局 (日本大学) より、東日本部会 2012 年度総会の参加者数などの報告があり、総会は見学会を含めて滞りなく行なわれたとの総括がなされた。

(2) 2012 年度研究会について

馬場氏より、東海大学では現在、創立 70 周年を契機とした資料データベースの公開および寺崎昌男氏講演会などを企画しているとの説明があり、この企画を 12 月研究会として東日本部会との共催で行ないたいとする提案があった。共催については承認されたが、講演会の規模などを考慮し、幹事会の同時開催、研究会としてのテーマ設定・進行などはあらためて調整することにした。

(3) 2013 年度総会・全国研究会について

東日本部会担当の2013年度総会・全国研究会の会場について、事務局（日本大学）より、御茶ノ水界隈に所在する大学（専修大学・中央大学・日本大学・明治大学）の共同開催が提案された。提案を受けて、こうした開催は初めてであり興味深い試みであること、他の地域でも同様な開催が可能であること、上記4大学は法律学校を起源とし研究会テーマなどで工夫できる点などが指摘され、共同開催が承認された。

(4) 会員の入退会について

機関会員である学校法人宮城学院の休会と、個人会員として藤田茂氏の入会が承認された。

(5) 記念事業ワーキンググループについて

東日本部会創立30周年（2018年）記念事業及び特別事業の計画として、展示、出版、国際シンポジウムの開催などが提案され、引き続き検討していくことにした。

ワーキンググループの人選については、前回の特別事業「大学史展」の実績を踏まえて西山氏、村松氏（明治大学）が推薦され、事務局から松原氏（日本大学）、齊藤氏（神奈川大学）が選任されることが了承された。

今後はワーキンググループ・幹事会で具体案を提起しながら、研究会などでの検討を通して、会員間の意見交換などを進めていくことが確認された。

(6) その他

・叢書編集担当（日本大学）より、『研究叢書』第13号の編集進捗状況の報告がなされた。

・2012年度全国研究会の報告予定者である村松氏（明治大学）から報告内容の紹介があった。

・次回幹事会は2012年9月27日（木）に開催することにし、会場はあらためて検討することにした。

全国大学史資料協議会東日本部会
研究会記録

第79回 2012年3月6日（火）

14時00分～17時00分

会 場 武蔵野美術大学新宿サテライト
roomA・B

出 席 学習院 神奈川大学 関東学院
国立音楽大学 恵泉女学園
國學院大學 国際基督教大学
国土舘大学 淑徳大学 上智大学
女子美術大学 専修大学 拓殖大学
東海大学 東京家政大学
東京女学館 東京女子医科大学
東京農業大学 東洋英和女学院
東洋学園大学 南山大学
日本体育大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
明星大学 立教大学 立正大学
鈴木 秀幸 桂 典子 坂口 貴弘
富田 美加 中村 青志
〔オブザーバー〕
石田順二（武蔵野美術大学）

（以上46名）

会長挨拶 澤木 武美氏
（神奈川大学大学資料編纂室）

司 会 齊藤 研也氏
（神奈川大学大学資料編纂室）
松原 太郎氏
（日本大学大学史編纂課）

基調報告 鈴木 秀幸氏（名誉会員）
「大学資料の調査・収集を考える」

報 告 瀬戸口龍一氏

(専修大学総務部大学史資料課)
「専修大学における学外資料の調査・収集・活用について」

坂口 貴弘氏

(京都大学大学文書館)
「京都大学大学文書館における学内文書の移管と整理」

概 要 本年度の研究会年間テーマである「新たな史資料の収集と利用」に基づき、今回は東日本部会名誉会員の鈴木秀幸氏が上梓した『大学史および大学史活動の研究』（日本経済評論社発行 2010年刊）に収められている諸論考のうちの「大学資料の調査・収集」に焦点を当て、まず鈴木氏による基調講演の後、学外資料・学内資料に関する報告を各1名ずつ行い、最後に参加会員も含めたディスカッションを展開した。

鈴木氏の基調講演「大学資料の調査・収集を考える」では、大学資料の種類や調査・収集の形態に関することをはじめ、「大学史を何のためにするのか」といったビジョンをもつこと、また「足」をつかうことの重要性や資料の調査・収集の共同連携に努めていくべきことなど、学内外の資料調査・収集に関する今後の目標も含めた総合的な見解が提示された。次に学外資料・学内資料に関して、まず学外資料については私立大学からの報告として、専修大学大学史資料課の瀬戸口龍一氏による「専修大学における学外資料の調査・収集・活用について」では、他大学の取り組みなどを参考にして行った学外資料を用いての企画展の開

催や資料集の刊行の事例を紹介し、私立大学では学内資料については様々な制約があるため、学外資料の調査・収集のほうが容易であること、また専修大学では大学史への取り組みが後発であるからこそ、他大学の良い点を積極的に取り入れられるメリットがあることが指摘された。続いて学内資料については、公文書管理法が適用される国立大学からの報告として、京都大学大学文書館の坂口貴弘氏の「京都大学大学文書館における学内文書の移管と整理」では、非現用文書のシステムティックな移管を構築しつつも、非現用文書の移管は現用文書の整理につながることを学内にアピールすることや、各部局との信頼関係を築くことが第一義であることなどが提起された。そして、参加会員を含めたディスカッションでは、学外資料の収集に関する個人情報保護をめぐる問題についての質問や、学内資料の調査・収集にも「足」が必要といった意見などが呈せられたほか、学外資料に関する情報をはじめ、学外の機関・人物とのつながりを得る上で、本協議会が果たす役割の重要性が言及され、そこから「大学資料の調査・収集」のテーマは、本協議会の今後のあり方につながる問題であるとの認識も示された。

(齊藤 智朗)

第80回 2012年7月19日(木)
14時00分～16時00分
会 場 東京理科大学神楽坂キャンパス
1号館1階111教室
出 席 愛知教育大学 神奈川大学

関東学院 工学院大学 國學院大學
 国際基督教大学 国士舘大学
 駒澤大学 芝浦工業大学 淑徳大学
 上智大学 女子美術大学 専修大学
 大東文化大学 拓殖大学 中央大学
 東海大学 東京経済大学
 東京女子医科大学 東京農業大学
 東洋英和女学院 東洋学園大学
 獨協学園 日本体育大学 日本大学
 北海道大学 武蔵野美術大学
 明治大学 明星大学 立教大学
 立正大学
 東田 全義 石田 順二 工藤 元
 西山 伸 野澤 和範 橋本久美子
 馬場 弘臣 (以上 50 名)

会長挨拶 益井 邦夫氏
 (國學院大學 校史・学術資産研究センター)

司 会 齊藤 研也氏
 (神奈川大学大学資料編纂室)

講 演 竹内 伸氏
 (東京理科大学近代科学資料館館長)
 「近代科学資料館のなりたちと活動のとりくみ」
 大石 和江氏
 (東京理科大学近代科学資料館学芸員)
 「日食展報告—天文書デジタルデータの公開」

見 学 近代科学資料館展示室
 概 要 研究会では、最初に竹内館長より、平成3年に竣工された近代科学資料館の設立目的および沿革、平成22年の規定制定、そしてその翌年のリニューアル以降の現状など、館の概要についての説明がなされた。次に学芸員である大石氏より今年5月に開催された「日食展」および館蔵資料のデジタル化作業について、担当者の視点を交えた詳細な報告がなされ、その報告の

最中にはデジタル化した天文暦学書を閲覧できる iPad が会場内に回覧された。

講演後は、参加者を2グループに分けての資料館見学となり、それぞれのグループが竹内氏・大石氏による解説を聞きながら、館内を巡覧した。2階では翌日から開催予定の「秋山仁の算数・数学おもしろランド」の展示作業が進められていたが、忙しい最中にもかかわらず、学生スタッフからも展示物の丁寧な説明をいただいたほか、展示物に実際に触わるなどの理科系大学ならではの資料館が企画した展示を体験することができた。(瀬戸口龍一)

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【日本大学・広報部大学史編纂課】

〒 359-0003
 埼玉県所沢市中富南 4-25
 ☎ 04-2996-4555

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒 221-8686
 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
 ☎ 045-481-5661

会 報 編 集

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒 221-8686
 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
 ☎ 045-481-5661